

(基本情報)

会議名称	第 4 回 立川市第 5 次地域福祉計画策定検討委員会 第 6 次地域福祉市民活動計画策定委員会
開催日時	令和 6 年 7 月 24 日（水曜日）午後 7 時 00 分～9 時 00 分
開催場所	立川市役所本庁舎（2 階 208・209 会議室）
次第	1. 立川市福祉部長あいさつ 2. 立川市社会福祉協議会事務局長あいさつ 3. 委員長あいさつ 4. 重層的支援体制整備事業実施計画の策定について 5. 現計画のふりかえりについて 6. 次期計画の重点推進事項について 7. その他
配布資料	1. 重層的支援体制整備事業実施計画の策定について 2. 現計画の地域福祉推進のための 4 つの要件による評価（市） 3. 現計画の地域福祉推進のための 4 つの要件による評価（社協） 4. 両計画における重点推進事項の評価 5. 第 4 回作業部会 記録 6. 次期計画の重点推進事項の論点整理について
出席者	〔委員〕 熊田博喜（委員長）、中村喜美子（副委員長）、久下沼諒、藤原紀子、齋竹一子、菅根浩子、井村良英、太田なつみ、岡本彰子、中村ひとみ、宮本直樹 〔事務局〕 ＜立川市＞ 佐藤岳之（福祉部長）、小平真弓（地域福祉課長）、高橋知宏（地域福祉推進係長）、田中真吾（地域包括ケア推進係長）、竹森雅人（地域福祉推進係） ＜立川市社会福祉協議会＞ 吉野晴彦（事務局長）、枝村珠衣（地域活動推進課長）、小山泰明（地域づくり係長）、内金崎快、高橋美季、吉田理恵（地域づくり係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	以下の通り
その他	以下の通り
担当	立川市 福祉部 地域福祉課 地域福祉推進係 電話 042-523-2111（代表）

主な意見

【1. 立川市福祉部長あいさつ】

- ・福祉部長よりあいさつがあった。

【2. 立川市社会福祉協議会事務局長あいさつ】

- ・社会福祉協議会事務局長よりあいさつがあった。

【3. 委員長あいさつ】

- ・委員長よりあいさつがあった。

【4. 重層的支援体制整備事業実施計画の策定について】

<事務局（市）>

- ・資料1に基づき、重層的支援体制整備事業実施計画の策定について説明した。

<委員>

- ・資料1「(3) 重層的支援体制整備事業に関する作業部会からの意見」について、詳しく聞きたい。

→<事務局（市）>

・重層的支援体制整備事業で受けた相談の先の、困難を抱える当事者が活躍できる場への繋ぎや、繋ぎ先の場の充実、地域福祉コーディネーターを中心とした地域人材の発掘等を取り組む必要が重要であるため記載させて頂いた。

→<委員>

- ・地域人材の発掘について、具体的な考えを教えてほしい。

→<事務局（市）>

たちかわ地域サポーター講座を社会福祉協議会と連携しておこなっている。また、地域福祉コーディネーターと繋がっている人や、地域福祉アンテナショップに関わる人の中から発掘や育成、またそれぞれの特性を生かした場づくりを含め、検討している。

→<委員>

地域の繋ぎ手が人口減社会で重要になってくると思う。外国の高齢者施策で、困っている人にも持っている力があり、それを自身がどう生かせるか、まわりがどう引き出せるか、そういった試みもあるので検討してみてもどうか。

→<委員長>

重層的支援体制整備事業実施計画と地域福祉計画は、相互に補強し合う関係ではあるが、地域福祉計画を充実させ、推進していければ重層的支援体制整備事業実施計画も円滑に進むものと考えられる。特に人材の発掘・育成については計画を充実させるにあたって

は必要な要件となってくる。各計画との連動性についても今後の委員会の中で議論していければと思う。

<委員>

・各課がどのように連携し、どのような役割を担っているのかを可視化していただきたい。

→<事務局（市）>

・計画の中でわかりやすい形で示していきたい。

【5. 現計画のふりかえりについて】

<事務局（市・社協）>

・資料 2、3 および 4 に基づき、現計画のふりかえりについて説明した。

<委員>

・量的評価について、新型コロナの影響からもとに戻りつつある部分の評価では、コロナ禍以前からの推移が見えればわかりやすいのではないか。

・量的評価について、目標を設定し、そこに到達できるかが重要ではないか。

→<事務局（市）>

・コロナ禍以前からの推移は次回お示ししたい。

・現計画には評価指標やその数値目標の記載がなく評価が難しい面があったが、次期計画では評価指標と数値目標は設定したいと考えている。また、数値だけでは測れないところもあるので、質的評価やプロセス評価も用いて評価していきたい。

→<事務局（社協）>

・集計の仕方が変更された指標もあるが、既存で集計しているものは次回お示ししたい。

<委員>

認知症サポーター講座について、質的評価であれば、講座受講者が地域でどのように活躍されているのかを知りたい。また、たちかわ地域サポーター講座について、量的評価であれば、講座にどの程度の人数が参加したのか、また講座受講者が地域でどのように活躍されているのかを知りたい。

→<事務局（市）>

立川市では小学 4 年生が必ず受講するものだが、例えば実際に地域の小学生が一人歩きの認知症の高齢者の方について、自宅に帰れるよう行動したということがあり、実際に行動につながっている。また、スーパーマーケットや郵便局等の地域で働く方の中にもこの講座を受講して、それぞれの業務の中で活用していただいているということもある。そういった点でも、認知症のある方も地域の中で安心して生活できるということにつな

がっていると考えるので、評価に記載している。

→＜事務局（社協）＞

・たちかわ地域サポーター講座の参加者は昨年、今年ともに十数名だが、正確な数字は次回お示ししたい。講座受講者については、地域福祉アンテナショップの運営委員会への参加や、ちょこっとボランティアへの参加等、活躍の場が広がっている。

→＜委員＞

こういったエピソードがあると評価としては良いのではないか。また、講座を受講することを通して、養成という事だけでなく、啓発や地域活動に目を向けていただくきっかけになるという考えか。

→＜事務局（社協）＞

その通り。

→＜委員長＞

次期計画策定にあたり、評価の方針を考えながら進めていく必要がある。

【6. 次期計画の重点推進事項について】

＜事務局（市・社協）＞

・資料5および6に基づき、次期計画の重点推進事項について、委員に意見を頂きたい旨を説明した。

＜委員＞

（まるごと相談支援について）

（意見）

- ・チャットボットなどのデジタルツールはこれからの時代は必要と考える。
- ・まるごと相談支援については、「なんでも聞きます」というような姿勢が表れるようなサブタイトルがあると良いと思う。
- ・「コンシェルジュ」というフレーズはどうか。
- ・「まるごと相談支援」という文言は市役所の中で目につかなかった。見やすいところにあるのが重要ではないか。
- ・他市事例だが、「子ども・子育てなんでも相談」という窓口があり、「なんでも相談していい」ということがすぐにわかるものであった。
- ・例えば、外国人の方にとって、まるごと相談というのはどうなのか。相談先がわからない故に知り合いに聞くしかないことがある。ホームページにアクセスしてチャットボット等で情報が得られれば多少、問題の解決につながるのではないか。

(質問)

- ・「まるごと相談支援」という文言は市役所内やホームページ等、どこにあるのか。
- ・「まるごと相談支援」の名称については、事業としての名称についてなのか、窓口の名称としてなのか確認したい。

(地域福祉コーディネーターについて)

(意見)

- ・地域福祉コーディネーターの役割については、地域で常にとびまわっていてほしいと思うので、役割を整理する必要がある。
- ・地域福祉コーディネーターはまちへ出て、さまざまな人と触れ合う仕事をしてほしい。

(質問)

- ・地域福祉コーディネーターが誰になっても、繋がり続けるような体制を作っておく必要があるため、地域福祉コーディネーターがコミュニティコネクター何人と繋がっているか、また自治会長や民生委員等の既存の組織ではない人と何人と繋がっているのかも知りたい。

(地域福祉アンテナショップについて)

(意見)

- ・地域福祉アンテナショップの名称について、福祉がつくと、「私の居るところではない」と思われたり、福祉的な居場所として市民に捉えられてしまう印象がある。名称は広がりつつあるが、変更するならこのタイミングで検討が必要。
- ・地域福祉アンテナショップのジャンル分けや特定の分野に特化した場所があると良いのではないか。また、それらが可視化できるような媒体やツールがあると良いのではないかな。
- ・ふらっと気軽に立ち寄れる場所として地域福祉アンテナショップは設置されているものの、目的がないと立ち寄りづらいところは否めない。まずは立川市には「ふらっと気軽に立ち寄れる」場所があるという事の周知をもっとしていく必要があるのではないかな。
- ・地域福祉アンテナショップについて、イベントがあれば行く気軽さはあるが、もうひとつ居場所機能ということについては踏み込んで検討していただきたい。また、問題解決機能についても整理して明確にしていきたい。具体的には不登校問題を扱っていただきたい。
- ・市や社協の様々な媒体(紙、デジタル)を利用して、さらに周知していくことにより、より信頼感のある場所として地域福祉アンテナショップが認識されるのではないかな。
- ・「BASE☆298」が地域福祉アンテナショップであることをもっと周知したほうが良いといわれるが、別に地域福祉アンテナショップであると知られなくてもよいと思う。大

切なのは、こういう場所があちこちにあるよりも、こういう活動があるということを知っていただくことで、各地域にあるというイメージでいきたいと考えている。

（質問）

- ・地域福祉アンテナショップという名称の由来をお聞きしたい。

（地域活動の担い手拡大について）

（意見）

- ・地域福祉ではなく、地域活動という表記は良い。
- ・企業との連携強化については、企業に何を求めるか、が見えてくると良いと思う。
- ・地域活動を盛り上げていく事が地域福祉につながっていくと思うので、地域活動という表記は良い。
- ・SNS が発達した世の中で、どのように繋がりを作っていくのかを考えて計画を構成したほうが良い。
- ・きっかけがあれば思わぬ人材が見つかることもあるので、とても重要なことだと思う。
- ・60 代、70 代の年齢でも働き続けている方も多く、地域活動のあり方についても、働きながら活動できるようなライトな形なものを検討していくことも必要だ。

<事務局（市・社協）>

質問については、次回委員会にて回答する。

【7. その他】

第6回および7回の委員会開催の日程調整をおこなった。